

## 何事も欲張らず、腹八分目

### 人はなぜ酒を飲むのか

酒を飲まない人にはどうでもいいことである。これが「人はなぜ水を飲むのか」だとしたら、見解も変わってくるだろう。飲まなければ死ぬからである。酒は飲まなくても生きられるし、むしろその方が長生きするのかもしれない。しかし、酒を酌み交わし食事を共にする行為は、先史時代より親交を深めるために必要な手段であった。また供物としても用いられる。神聖なものでありながら社交の場を盛り上げるのに欠かせない。人が酒を飲むのは、食事を楽しみ他人ともっと仲良くなるため、そんな理由の人が多いのではないだろうか。

### 酒を飲むためには器がないとね

先史より酒があるということは、酒を飲んだ器も当時から存在したわけである。縄文土器にはすでに酒器と思われるものがあり、縄文晩期には注口土器という液体を注ぎ入れる土器も出現する。弥生時代に入ると土器の焼成技術も上がり、大型の甕や壺、鉢、高坏など酒器としての土器も多種多様になる。とくに高坏などは神酒を供えるものとして現れたものであろう。

土器だった酒器が古墳時代には須恵器に変わり、その後、陶器、磁器と素地が硬質なものになっていく変化と共に、器形も実用的なものやユニークなものが登場する。ちなみに、さかずきを国語辞典で調べると「酒を飲むのに使う小さな器。多く、口が朝顔形に開いたものをいう」とある。酒を盛る器、つまり「酒杯」に由来している。

### 興 or 教の仕掛け酒器

宴席では、美味しい料理に合わせた華やかな器や趣向を凝らした器を揃えることがある。酒器も然り様々な形があるが、今回はその中でも精巧に作られた仕掛け酒器をいくつか紹介する。

#### (1) 可盃

可盃とは座興用の盃のことで、土佐(高知県)のお座敷遊びである。「可」の字は漢文で「可何々」(何々すべし)と書くように文章の上に付き下には来ない字であるため、下に置けない盃を「可盃」と呼ぶようになった。「おかめ」「ひよっこ」「天狗」の盃と「六角独楽」のセットで、コマの六面に各々盃の絵が描かれる。盃の大きさは、おかめ→ひよっこ→天狗の順に大きい。おかめは安定は悪いが下に置くことができ、ひよっこは口元に穴が開いているため、指で穴をふさぎながら飲み干さないと下に置くことはできない。天狗は、高い鼻が邪魔をして飲み干さないと下に置くことはできない。遊び方は、皆で円になりコマを回し、止まった時に軸の先が向いている人が、コマの絵柄の可盃で、一気に酒を飲み干す遊びである。



「可盃」白鷹禄水苑蔵  
兵庫県西宮の酒造家・北辰馬家に  
伝来したもの

この可盃は土佐の余興盃であるが、実は江戸遺跡でも可盃は出土する。市谷仲之町西遺跡の碗形小杯は、底部中央に焼成前に開けた直径3mmの穴があることから可盃と考えられる。見込みに鯉の滝登りが江戸絵付けで描かれ、碁笥底の形状をしている。このように、意図的に穴を開けた余興盃は江戸時代より各地でしばしば見られる。

#### (2) 遊興盃

「一合」「五合」「一升」と描かれた枅と「サイコロ」のセットで、サイコロには数字や「唄」「踊」と記される。遊び方は、サイコロを振り、出目に応じた盃で酒を飲む、または

#### 【特集】

何事も欲張らず、腹八分目

#### 【ご案内】

- 手仕事ギャラリー  
「Authentic Aesthetic  
— 岩田俊彦 作品展 —」開催
- テーマ展示  
「明治期の折熨斗コレクション」開催  
「化粧品業界初の  
「全面カラー新聞広告」初公開」(仮)開催
- エデュケーション・レポート4
- 展示・講座・イベント等の開催について  
— 2020年10月~2021年3月期

唄や踊りを披露する。該当する出目が出なければもう一度振るか、一回休みとして次の人に渡す。枱には「一升」や「五合」と描いてあるが、実際の容量はそれより少なく、一度に大量飲酒はしないのでご安心を。



「遊興盃」白鷹水苑蔵 北辰馬家伝来

### (3) 十分盃

十分盃とは、ある一定量を超えて酒を注ぎ入ると、中に入っていたすべての酒が下にこぼれ落ちてしまう仕掛けの盃である<sup>1)</sup>。盃の中央に突起があり、この突起の中側に盃の高さの八分目までの細管が通っている。細管は底部の穴と繋がっている構造で、



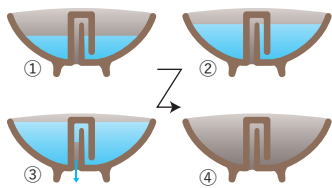
「十分盃」個人蔵・長岡市立科学博物館画像提供  
中央の突起部は竹を象る

八分目を超えて酒を注ぎ入ると底部の穴からこぼれ落ちる。仕掛け酒器の中でも教訓茶碗として知られている。この盃で酒を楽しみたいならば、せいぜい八分目までを楽しむ心の余裕が必要であるという教訓が込められている。

## 十分盃の構造 —なぜ酒が全部こぼれてしまうのか—

十分盃はサイフンの原理を応用した盃である<sup>2)</sup>。サイフンの原理とは、管で液体を移すときに使われる仕組みである。高い位置にある液体の入った容器と低い位置の目的地を管でつなぐと、管内が液体で満たされていれば、汲み上げることなく管を通して液体が流れ出す。汲み上がった液体は地球の引力に引張られ下へと落ちるようになっている。

十分盃の場合、中央の突起に管が仕込まれており、この部分がサイフォンとなる。管を隠すため竹などを象った装飾が付いているが、突起部の根元に穴があり八分目以上酒を注ぐと管を通して外へ流れ落ちてしまうのである。



「十分盃」の構造図

## 越後長岡藩の精神と十分盃

前掲の「十分盃」は、越後長岡藩三代藩主牧野忠辰(1665～1722)が22歳の時に作らせたものといわれる。突起部は松竹梅の3種があったと伝えられるが、長岡市には竹の十分盃のみが現存する。ただし、長岡市悠久山蒼柴神社には突起部が梅花の十分盃が現存し、新宿区四谷一丁目遺跡からも同形の十分盃が出土している。

忠辰は二代藩主忠成の長子で、10歳で家督を継ぎ、大叔父の牧野忠清が後見役として養育した。家老の意見をよく聞きまた家老もよく補佐し、生来、聡明であった忠辰を名君とした。民政

にも力を入れ、新田開発、山林の植林などを行い、商工業の振興にも努め、敬神家でもあった<sup>3)</sup>。

長岡藩を根底から支えていた精神は2つあったといわれている。1つは常在戦場(戦場にいる心構えで事に当たれ)の精神であり、もう1つが十分盃(戒め、節儉)の精神である。忠辰以前から武士は簡素な生活を旨としていた。ところが、元禄期(1688～1704)に貨幣経済が確立すると、経済が活発化し町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも華美となっていった。忠辰はこれを憂い、文武の奨励や制度の改定をして、藩士の引き締めを図った。その象徴が十分盃だった。

「満つれば欠く」という処世訓を示したのである。十分盃による節儉の教戒は、忠辰が領民の持参した十分盃に感銘を受け、次の詩を詠んだことから始まる。以下は忠辰作の序文と詩である。

### 十分盃の銘並びに序<sup>4)</sup>(原文ママ)

或るひと十分杯を以て予に示す。夫れ惟んみれば、十分盃の器為る、其の八分なれば則ち溢れず、盈つれば則ち皆漏る。諸を人の身志に比するも亦然り。位高ければ則ち必ず悔有り。心敬せざれば則ち必ず過ち有り。故に易に曰く「天道盈つるを虧く。亢龍悔有り」と。其れ斯の謂ならんか。

### 銘に云く

位高易傲	位高ければ傲り易く	意肆来悔	意肆なれば悔来る
物理爾皆	物理皆爾り	観十分杯	十分杯を観よ
丁卯(貞享4年/1687)孟冬		樗軒悦咲子(牧野忠辰)	(後略)

この詩からは、忠辰が「物事は八分の余裕をもって行えば万事うまくいく」と自らを戒め、家臣・領民に節儉の精神を説いていたことが伝わってくる。

## ほどほどのすすめ

忠辰が伝えたかったことは、「何事もほどほどが丁度いい」という精神だったのかもしれない。酒に関する名言に「酒を飲むのは時間の無駄、飲まぬは人生の無駄」という言葉がある。酒飲みの方明のような言葉ではあるが、現代においても宴席で有益な情報を入手したり、人生の転機となる場面は大いにある。可盃、遊興盃だって立派な社会勉強のひとつだ。とはいっても「何事もほどほどが丁度いい」という忠辰の教訓に従えば、酒量はほどほどが丁度いいのだが。

1) 山形県に「八分盃」、石垣島に「教訓茶碗」、韓国に「戒盈盃(ケヨンベ)」という同じサイフンの原理を応用した器(後述)がある。  
2) サイフンの原理を最初に考案したのは、1世紀頃に活躍したギリシアの発明家、数学者、物理学者のヘロンといわれている。ヘロンはサイフンの原理を利用し「ヘロンの噴水」を発明している。  
3) 越後長岡藩牧野家の藩主の経歴については、2013 長岡大学 権五景ゼミナール/編『十分杯の広報活動』より一部抜粋。  
<https://www.nagaokauniv.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/05/hou24-2-kwon.pdf>  
4) 1994『長岡市史』資料編3所収



四谷一丁目遺跡出土の「十分盃」  
新宿区蔵  
上:中央の突起部は梅花を象る  
下:底部を穿孔し液体が流れ出る仕組み

## 手仕事ギャラリー「Authentic Aesthetic —岩田俊彦 作品展—」

2020年11月14日(土) - 12月20日(日)開催 観覧料無料

※会期を変更して開催いたします。期間中、日曜日も開館します。

艶やかな美しさを持った堅牢な塗料として、美術工芸品から日用品に至るまで様々な形で親しまれてきた漆。今回、漆工芸の伝統的な技巧を用いつつ、既成の概念にとられない表現で美術作品を創作する現代漆芸作家 岩田俊彦氏の作品展を開催します。

本企画では、植物や昆虫、家紋などをモチーフとした大型のフラットパネル作品と、新たな手法で対極ともいえる偶発的な面白さを追求した作品をご紹介しますと共に、岩田氏の世界観を「小町紅」の紅板に表現した新作27点を展示・販売いたします。

また会期中には、岩田氏を講師に迎え、漆工芸の「塗り」や「研ぎ」を体験していただける講座を併催いたします。木地

調整から、色漆で模様をつけて研ぎ出すまでを、普段使いのできる箸の制作をしながら比較的簡単な工程でお楽しみいただけます。実際に漆の質感に触れることで、漆工芸をより身近に感じてください。

Authentic-正統な技術-とAesthetic-稀な感性-によって日常の中にくすぶるような余韻を残す岩田氏の創作の世界を、ぜひこの機会にご堪能ください。



小町紅 螺鈿(白)

### 併催講座「塗る、研ぐー漆箸制作入門」(全3回)

講師: 岩田俊彦氏(漆芸作家)

日程: 2020年11月29日(日)、12月6日(日)、20日(日)

各回10:30~12:30

会場: 紅ミュージアム 2階会議室

定員: 6名(定員になり次第受付終了)

参加費: 12,000円(全3回分・材料費込み)

※漆は肌につくとかぶれる場合があります。取り扱い際は、必ず講師の指示に従ってください。

2020年10月20日(火)10:00申込み受付開始/申込み方法: 電話(03-5467-3735)、伊勢半本店webサイトお問い合わせフォーム

### テーマ展示「明治期の折熨斗コレクション」

2020年10月6日(火)~12月26日(土)

“贈り物に熨斗を添える”——祝う気持ちを示すこの習わしは、贈答文化が広く浸透した近世社会に礼法として定着をみます。

そもそも「熨斗」とは進物に添えるものではなく、古来、高級な贈答食品であった干し鮑(アワビ)を薄く削ぎ、乾燥させ伸ばしたものを熨斗鮑(アワビ)それ自体を意味し、またその略称でもありました。今日、祝儀袋や進物の掛け紙に用いられる熨斗は、江戸時代以来の贈答のしきたりを簡略化した「折熨斗」であり、小さな方形の色紙を熨斗包みのかたちにしたもの、あるいはプリントされた味気ないものも少なくありません。しかし、折熨斗がもっとも多用された明治時代には、錦絵に劣らぬ彫りと摺りの木版技術を使い、目に楽しく色鮮やかなものが盛んに作られました。今展では、明治時代の貴重な木版摺りの折熨斗とその原紙をご紹介します。



折熨斗各種 明治時代

### テーマ展示「化粧品業界初の「全面カラー新聞広告」初公開」(仮)

2021年1月5日(火)~3月27日(土)

伊勢半は、昭和27年(1952)元日の『毎日新聞』朝刊に化粧品業界初の全面カラー広告を掲げました。新聞の全面カラー広告が本格化するのには、昭和39年(1964)の東京オリンピック開催によってカラーテレビが普及した以降だといわれていますので、とても早かったことが分かります。当時はまだスチル写真用カラーフィルムが珍しかった時代、人工着色による広告でした。

原紙は長らく非公開で社内保管されてきましたが、このたび保存処理を終え、約70年ぶりに一般公開することとなりました。化粧品広告に興味のある方はもちろん新聞や広告の歴史に興味のある方も必見です。

「キスマー特殊口紅」全面カラー広告  
『毎日新聞』昭和27年(1952)1月1日朝刊 ▶



## 学ぶ・楽しむ

## 紅ミュージアムのいろいろ

紅ミュージアムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により約4ヶ月間、臨時休館をしておりましたが、その間、休校中の子どもたちに自宅で楽しんでもらおうと、webサイト上に「**おうちミュージアム**」※をオープンしました。収蔵品の化粧品道具や浮世絵の画像をよく見て、クイズに挑戦する内容となっています。館が再開した現在も「おうちミュージアム」は引き続き公開しています。ぜひ、一度ご覧ください。

また、昨秋のリニューアルを反映した新しい「**常設展キッズ**



※北海道博物館が「学校がはじまるまでのあいだ、おうちでミュージアムをたのしもう」という趣旨で開始した企画で、全国200館以上が参加しています。



**ガイド**が完成しました。8月から中学生以下の子どもたちに配布しています。展示ガイドだけでなく、ワークシートやサイエンスページなど盛りだくさんの内容となっています。ご家族で見学をする時や、学校の調べ学習などにお役立てください。

## 当館の感染予防・拡大防止対策

紅ミュージアムでは、以下の取り組みを行なっています。

## ● 基本対策

- ・館内に消毒用アルコールを設置
- ・外気を取り入れた定期的な換気と館内の消毒・清掃の実施
- ・スタッフの日々の検温や健康状態の管理・確認
- ・スタッフのマスク・フェイスシールドの着用、接客時には手指をつど消毒
- ・タッチパネルディスプレイによる展示物の一部使用中止

## ● 3密対策

## 【2020年9月末まで】

- ・完全予約制による入館制限
- ・安心して展示をお楽しみいただけるよう見学は事前申込制とし、また見学時間を以下の4つに区切り、入替制でご入館いただいております。

①10:30-11:30 ②12:00-13:00 ③13:30-14:30 ④15:00-16:00

<予約方法>

右のQRコードから予約ページにアクセスいただくか、電話(03-5467-3735)または当館webサイトよりお申し込みください。



- ・開館時間の短縮(火・水・木・金・土曜日の10:00-16:00)

## 【2020年10月以降】

- ・事前予約なしで入館可能。ただし、以下の制限を設けます。
- 1. 各フロアへの入場人数は最大10名まで
- 2. 6名以上のグループ見学は受入れ不可
- ・開館時間の短縮(火・水・木・金・土曜日の10:00-17:00)

※講座やイベント開催等で臨時的に日曜日を閉館する場合あり

## ご来館のお客様へのお願い

## ● ご来館に際して

- ・マスクの持参をお願いします
- ・下記1~3にひとつでも該当する方はご来館をお控えください
- 1. 発熱(37.5度以上)や咳、咽頭痛等の風邪の症状、味覚障害のある方
- 2. 新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触あるいはその可能性のある方
- 3. 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国・地域への訪問歴がある方および当該在住者との濃厚接触がある方

## ● ご入館に際して

- ・マスクを不着用ください
- ・入口に設置したアルコールで手指の消毒をお願いします
- ・入口で検温を実施します。37.5°C以上の発熱が確認された場合、入館をお断りいたします
- ・受付票へ氏名・連絡先・来館日時をご記入ください。左記個人情報は、新型コロナウイルス感染症対策に必要な生じた際のみ使用します

## ● 館内、展示室内では

- ・咳エチケットをお守りください
- ・お客様同士の間隔の確保にご協力ください
- ・会話、発声はお控えください
- ・感染防止のため展示物や展示ケースには触れないでください

## 展示・講座・イベント等の開催について—2020年10月~2021年3月期

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年3月~8月のすべての講座を中止または延期することとなり、お申込みいただいた皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

10月以降は、手仕事ギャラリーやテーマ展示のほか、定期講座(江戸の化粧再現講座)、延期中の講座(体験型キュレーターズトーク「化粧『モノ』語り~ヘア・ケア編」・「白い歯と黒い歯の粧い」・「組紐体験講座」)などを開催する予定です。一部講座につきましては、パソコンやスマートフォンを使用し、ご自宅からご参加いただけるオンライン講座も検討中です。

上記いずれの開催にあたっては感染防止対策の徹底に努めてまいります。今後の状況次第では再度の中止や延期となる可能性もございます。政府や東京都の勧告を踏まえつつ、諸対策の維持、または緩和もしくは強化の判断をした上での活動となりますことを何卒ご理解ください。最新情報は伊勢半本店webサイトやSNSで随時お知らせいたします。

開館時間/10:00-18:00(最終入館は17:30まで) ※短縮開館等の変動あり

休館日/毎週日・月曜日・創業記念日(7月7日)・年末年始

入館料/無料 ※ただし、企画展観覧は有料

アクセス/地下鉄 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車 B1出口(階段)より徒歩12分/  
B3出口(エスカレーター・エレベーターあり)より徒歩13分

バス 渋谷駅東口バスターミナル 51番乗り場 都01新橋駅前「南青山七丁目」停留所下車

〒107-0062 東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F TEL.03-5467-3735

最新の情報は当館webサイトでご確認ください。 <https://www.isehanhonten.co.jp>



紅ミュージアム  
BENI MUSEUM

Presented by  
KISSME